

第6回組織開発ラボトリー

「Managing and Facilitating Complex System Change(複雑なシステムの変革を遂行し促進する)」

担当者	ディートレス (ディート) ラコアー 中村和彦 (南山大学人文学部心理人間学科教授)
概要	<p>【組織開発 (OD : Organization Development) とは?】</p> <p>組織開発 (OD: Organization Development) の源流はTグループにあります。1950年代の終わり頃より、Tグループのトレーナー達が、グループへの働きかけの理論やスキルを、企業のミーティング場面でのチーム・ビルディングに応用していったのが、組織開発の始まりでした。</p> <p>組織開発とは、組織の効果性と健全性を高めることをめざした、計画的で長期的な変革の取り組みであり、組織文化や人的要因 (やる気や満足度、コミュニケーション、人と人との関係性、協働性、リーダーシップ、規範など) のプロセスに働きかけるための理論や手法の体系です。コーチング、ファシリテーション、チーム・ビルディング、プロセス・コンサルテーション、フューチャーサーチ、ワールドカフェ、AIなど、個別の手法として日本に紹介、導入されているものも、米国においては組織開発 (OD) の歴史と体系のもとに発展してきました。組織開発の発展には、NTL Instituteのメンバー (シャイン、ベックハート、アーギリス、パークなど) が貢献してきました。</p> <p>日本においてTグループを長年実施してきた当センターとして、米国における組織開発の理論と実践について「ラボトリー」として体験から学ぶトレーニングを日本で実践することも重要なミッションであると考えています。そのミッションを実現するために、当センターでは、米国から組織開発の専門家を日本に招聘して、組織開発について体験から学ぶラボトリーを年1回開催しています。</p> <p>【今年度の組織開発ラボトリー テーマ】</p> <p>今年度の「第6回組織開発ラボトリー」は、米国NTL Instituteのメンバー、ディート・ラコアー氏を招へいし、「複雑なシステムの変革を遂行し促進する」というタイトルで実施されます。ディート氏はNTLでこの講座を担当されています。</p> <p>今回実施される「複雑なシステムの変革を遂行し促進する」は、NTLの「組織開発修了証プログラム」で、最終のステップの研修として位置付けられているプログラムです。組織開発の実践をする際に、対象となるクライアント・システムをどのように捉え、変革をどのように推進し、ファシリテートするかについて学んでいきます。</p> <p>ここでいう「システム」とは、システム理論の中で用いられる意味での「システム」です。たとえば、ある部門を対象として組織開発の取り組みを進めていく際に、その部門というシステムの中で起こっているプロセス、システムの外 (組織全体、組織外のステークホルダーなど) との間で起こっているプロセス、など、複雑なシステムの内外で起こっているプロセスをシステム思考から捉え、変革を推進していく必要があります。</p> <p>今回の講座は、以下の3つのねらいのもとで行われる予定です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複雑なシステムを変革する際の不確実さやダイナミクスに対応していく概念的な理解を養う。 ・何が起こっていて、何が重要で、どのようなアクションをしていくかを捉える方法を学ぶ。 ・現在携わっている事例 (組織の変革をファシリテートする事例、ご自身のパーソナルライフも含めて) に学びを適用する。 <p>今回の講座では、自己組織化 (self-organizing)、適応的行為アプローチ (adaptive action approach) などの理論が取り扱われる予定です。また、ご自身が現在携わっている変革の取り組みの事例 (またはご自身が所属されている組織の事例) について検討する機会があります。</p>
日程	2015年2月23日 (月) ~2月27日 (金) 5泊6日
定員	22名
参加資格	<p>組織開発の基本的な進め方について理解されている、組織開発コンサルタント、ファシリテーター、組織内部の変革推進者 (チェンジ・エージェント)、人事・人材開発担当者、マネージャーやリーダーなど。なお、全体会での小講義や実習の際には通訳がなされます。</p> <p>※組織開発に関する講座への参加経験があることを受講の前提とします。</p> <p>(例: 人間関係研究センター主催「組織開発ラボトリー」; OD Network Japan主催「組織開発基礎講座」、「組織開発体験講座」; 関西生産性本部主催「企業内組織開発実践者養成コース」; 慶應MCC主催「組織開発論」; 日本マンパワー主催「組織開発ファシリテーター養成講座」; 日本能率協会主催「組織開発フォーラム」など。ご不明な点は事務局までお問い合わせください。)</p> <p>※宿泊制プログラムのため、下記施設にご宿泊いただきます。また、グループでの体験学習方式で進められるため、全日程にご参加いただく必要があります。全日程にご参加いただけない場合は、参加をお断りします。</p>
会場	浜名湖ロイヤルホテル 〒431-0101 静岡県浜松市西区雄踏町山崎4396-1 最寄駅: JR舞阪駅
受講料	<p>受講料: 200,000円 (税込) ※本講座は、受講料割引は適用されません。</p> <p>滞在費: 50,998円 (税込) (ツイン利用、宿泊・食事・会場費含む)</p> <p>63,948円 (税込) (シングル利用、宿泊・食事・会場費含む)</p> <p>※食費には、初日の昼食から最終日までの昼食までの、朝食、昼食、夕食が含まれます。</p> <p>※滞在費は、講座最終日にホテルのフロントにてお支払いいただきます (クレジットカード利用可)</p>
メルマガ講座報告	<p style="text-align: right;">コーディネーター 中村和彦 記</p> <p>本センターは、米国NTL Instituteとのパートナーシップに基づいて、NTLメンバーを毎年招へいして、NTLが実施する組織開発サーティフィケート・プログラムの中の1つのコースを日本で開催する、「組織開発ラボトリー」を毎年開催しています。2014年度の第6回組織開発ラボトリーは、「複雑なシステムの変革をファシリテートし対処する」というテーマで、2月23日 (月) ~2月27日 (金) に浜名湖ロイヤルホテルで実施されました。講師は、NTLメンバーのディート・ラコアー氏 (Dr. Deatrus LaCour) でした。参加者は、組織開発コンサルタント、企業に所属する方々、大学関係者など、20名でした。</p> <p>NTLの組織開発サーティフィケート・プログラムには、今ここに起こるプロセスから学ぶタイプと、組織開発の理論などのコンテンツを学ぶタイプがあります。今回のコースは後者のタイプであり、講義と質疑応答が約7割、実習やグループでの対話が約3割という時間配分でした。複雑系科学をベースとした組織開発の理論である、「適応的行為モデル (Adaptive Action Model)」を中心に学ぶとともに、参加者の皆さんが携わっている実際の事例にそのモデルを当てはめながら学びを深めました。</p> <p>複雑なシステムは、現代の刻々と変化する経済状況や世界情勢を例に考えるとイメージしやすいです。刻々と変化し、数年後どうなっているかは予測不能で、ある国の出来事が全世界に影響します。組織も同じで、環境の変化に大きく影響され、この先何が起こるかは予測不能であり、スタックした場合に何がいいかを判断することが難しく、過去の解決策をそのまま活かさない場合が多い、というのが複雑なシステムの前提だと捉えます。そのようなシステムでは、伝統的な組織開発のアプローチではなく、スタックしたパターンについて立ち現れる形でのwhat? So what? Now what? の迅速なサイクルを回す必要があるというのが「適応的行為モデル」の考え方です。今回のコースの中で私たちは、複雑なシステムで起こっているパターンをどのように見定め、どのように働きかけるかを学ぶとともに、自らの事例に応用して学びをさらに深めました。</p> <p>同時に、今回のコースの中で起こっていたプロセスもまた、新しい理論、通訳を介しての学び方などという「複雑なシステム」の中で出現するパターンに、参加者の皆さんや講師のディートさん、通訳のお2人が適応する形で、ともに学ぶ関係が築かれていったように感じています。複雑系の難しい理論について熱心に伝え、日本の文化に「適応的」に関わってくれた講師のディートさん、新しい理論をエネルギーに訳してくださった通訳の加藤美貴子さんと山口めぐみさんに感謝申し上げます。</p>